

3分で分かる 海洋ゴ三問題



海と日本
PROJECT

海ゴミとは？



海岸に打ち上げられたゴミを「漂着ゴミ」と言います。そして、海面や海中を流れにのって漂っているものを「漂流ゴミ」、海底に沈んで堆積したものを「海底ゴミ」も含めて「海洋ゴミ(海ゴミ)」と言います。

その中でも、直径5ミリメートル以下の微細なプラスチックゴミを「マイクロプラスチック」と言います。皆さんが普段使っているプラスチック製品の破片が主たるものです。

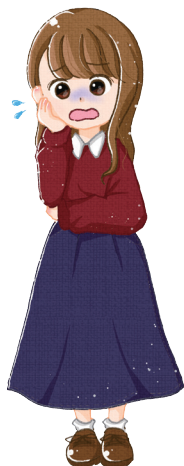
これらのマイクロプラスチックは回収困難と言われ、海が「プラスチックスープ」のようになってしまう危険性があります。



海ゴミの量はどれくらい？



毎年約 800 万トンのプラスチックが海に流出しています。その多くがアジアから出されており、2025 年には 2010 年の 10 倍、2050 年には海に生息する魚の総重量を超えると推計されています。



どんな影響があるの？



●生態系への影響

マイクロプラスチックに含まれる、あるいは付着している有害物質が食物連鎖に取り込まれ、生態系に及ぼす悪影響が懸念されています。また誤飲・誤食を繰り返して、消化器にたまってしまい、エサを食べられなくなって死んでしまう生き物もいます。

●経済や社会への影響

ゴミによる景観の悪化、水産物へのゴミの混入、ゴミの撤去費用の増大など多くの悪影響があります。



国レベル・世界レベルでは海ゴミ問題に対してどのような取り組みをしているのでしょうか？



日本では、2009年に海岸漂着物処理推進法が制定されました。これは以下のような課題に対応するために制定されたものです。

- ・ 海岸漂着物の処理の責任が不明確
- ・ 処理しきれない大量の海岸漂着物が各地の海岸に漂着
- ・ 周辺国や内陸など他の地域に由来するごみが多く、地元の海岸の対応では不十分

具体的には次のような対策の三本柱が掲げられています。

- ・ 海岸漂着物等の円滑な処理と発生抑制
- ・ 多様な主体の適切な役割分担と連携の確保
- ・ 国際的な協力の推進

●成果

被害甚大な海岸における回収・処理は進展しましたし、発生抑制対策（普及啓発・環境教育）も進みつつあります。

●課題

被害が甚大な地域では、回収・処理の繰り返しになっています。

また、漂着ゴミを除けば海ゴミは河川から流れてくるものがほとんどなので、都市部や河川の流域も一体となった取り組みが必要ですが、そのような体制はできていません。

世界の取り組み



2019年6月、大阪で開かれたG20（20か国の首脳が集まった国際会議）では、新たな海洋プラスチック汚染を2050年までにゼロにする事を目指す「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が共有されました。

プラスチックの重要性を認識しつつも、管理を誤ったプラスチックごみの流出を減らすなど、総合的なアプローチによって海洋プラスチックごみによる汚染の削減を目指すとしています。

ただ、ビジョン（目指す社会像）や取り組みに向けた枠組は設置されましたが、どれも法的拘束力はなく不十分だという声もありますし、2050年では遅すぎるという批判もあります。

まとめ



私たちの「豊かで」「便利な」生活は、プラスチック製品をはじめとする「モノ」を大量に生産し、消費し、廃棄する社会を前提としています。

この社会の仕組み自体を変えていくためには何ができるのでしょうか？



あなたにでき

①ポイ捨てをしないようにしましょう



当たり前のことですが、皆さん自身が道端や海岸にゴミを捨てないことです。

②使い捨てプラスチック製品を極力使わないようにしましょう



清掃活動をしていれば誰しも感じるのは、「元を絶たないとダメ」ということ。

特にプラスチック製品に関しては、3R(減らす:Reduce、再利用する:Reuse、リサイクル:Recycle)だけでなく、「使わない」という意思表示をすることも大切です。このようなRefuse(拒絶する)と、Repair(修理する)を含めて5Rと言われることもあります。

例えば、

- ・ビニール袋は「いりません」と言う(マイバッグを持っていきましょう)
- ・詰替式の商品を買い、使い捨て商品の使用を控える
- ・ゴミをちゃんと分別する
- ・余分な包装を断る

るアクション

③清掃活動に参加しましょう



近くでやっている清掃活動を探すにはゴミ拾い・環境イベントポータルサイト「Blue Ship」がおススメ！

<https://blueshipjapan.com/>



「自分たちでやってみよう！」と思ったら、「数人から100人単位まで対応！清掃活動完全マニュアル」をご覧ください。

<https://www.ivusa.com/umigomi/>



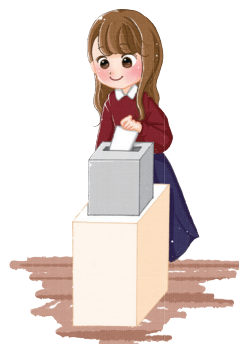
④ゴミ問題に対する政策について関心を持ちましょう



海洋ゴミ問題は現在、非常に関心が高まっています。

これを「一時的な盛り上がり」に終わらせないためには、2019年のG20で合意した国際的な枠組みがどうなっていくかに継続的に関心を持っていくことが必要です。

選挙に行く際も、この問題に対して立候補者はどのようなスタンスなのかをチェックしてみてもいいかもしれません。





編集・発行 特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA)

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂 1-34-4 B-102

☎ 03-3418-1840 ✉ ivusa-office@ivusa.com 🌐 <https://www.ivusa.com/>